



松田病院 院長 松田 文雄

「子どものストレスと心の理解」

現代では、おとなも子どもも、さまざまなストレスを抱えています。しかし、子どもの心は、多くのストレスを抱えるには容量が少なく、処理や対応する能力も十分には発達していないと言えるでしょう。子どもの心がはち切れそうになった時には、子ども達が成長し白らの力で自分の心を持って余すことなく抱え、健康的に生きていけるようになるまで、傍に居るおとな達はその子どもの心を丸ごと抱えなくてはなりません。

子どもの心を抱えるためのコツはあるのでしょうか。不用意に抱えてしまうと、思ったよりも重く、落としてしまうかもしれません。では、落とさないように強い力で抱き締めたらどうでしょう。意外に脆く、壊してしまうかもしれません。ほどほどの力で、慎重に大切に抱えれば大丈夫でしょうか。たまたま抱えようとしたところが尖っていて、おとなは怪我をし、痛みに耐えかねて手を離してしまい、結局子どもは落とされてしまったという結果になることもあります。どこをどのように抱えれば良いのかを知るためには、子どもの心を理解すること、理解しようとするのが大切です。そのためのいくつかの方法をあげてみましょう。

①子どもの行動を聴くこと（行動の背景にある気持ちを聴くこと）、②受容すること（言葉や行動の理由や気持ちを受け取るということ）、③今はそういう方法でしか自分の心を守れないということ（これを「心の安全弁」と呼びます）を理解し、むやみにその方法を奪い取らないことです。

子どもの心が見えなくなったとき、その子どもに対する気持ちを振り返ってみましょう。「どうして私はこんなにイライラするのだろう」「どうして腹が立つのだろう」「どうしてこの子は目立たない子なのだろう」「どうして『よい子』なのだろう」・・・と。きっとその理由を自分の中に見つけることができるはずです。

このようにして子どもの心が見えてきた時、その子どもの気持ちを受け入れ、必要なお世話と余計なお世話の境界を意識しながら、子どもの心に必要な関わりを考えることが必要です。子どもに対し愛情・受容・認容の心を持って関わることだけでは十分ではありません。子どもが、おとなから大切にされ、愛され、受け入れられ、認められているという気持ちを持つようになるための伝え方を考えることが大切です。

もくじ

○巻頭言 P. 1
 ○教育研究の紹介 P. 2
 ○研修講座だより② P. 3

○教育情報の紹介・コラム P. 4・5
 ○教育センターひろば P. 6

小・中学校におけるインターネットの活用に関する研究 (V)

教育センター指導主事 住吉 磨
教育センター指導主事 山領 勲

本研究は平成11年度から5年計画で、インターネットの教育利用について探ってきました。最終年度となる本研究では、インターネットを活用した学習指導の在り方について探るとともに、インターネットを活用した情報教育の推進態勢づくりや活用の具体的方法を探りました。その中から、①インターネットのよさを生かした学習指導—テレビ会議等による交流学習—②インターネットのよさの普及—校内研修の推進—について事例を交えながら紹介します。

1 インターネットのよさを生かした学習指導—テレビ会議等による交流学習—

研究協力校である二つの小学校では、平成14年度に総合的な学習の時間で交流学習が行われました。交流を通して、児童は「相手のことをもっと知りたい」「自分の思いを伝えたい」という思いから「交流の相手と一緒に何かをしてみたい」という共同学習への志向性や意欲の高まりがみられるようになりました。

この経験が、交流学習の二年目にあたる平成15年度の共同学習へと継続・発展していきました。具体的には、総合的な学習の時間と教科学習（国語科）とを関連させた交流学習の取り組みでした。以下は指導計画の一部です。

期 日	交流手段	情報発信	交 流 の 内 容
第14時 9/26	電子メール	B・A	国語科「海の命」の重要な色について共に考えて話し合うことの実践 【新たな課題提示による交流の必然性】
第15時 9/27	フックシミリ	A・B	重要な色の回答と理由をまとめてグループで話し合う 【自分の考えと比較、話し合う】
第16時 10/1	フックシミリ	B・A	「海の命」について話し合った意見をまとめて発信【見方、考え方の伝達】
第17時 10/3	テレビ会議	A・B	「海の命」の復讐の礼、B小のニュース番組視聴【交流推進の意欲の喚起】
第18時 10/10	郵 送	A・B	A小のニュース番組をCD、Rに録音して郵送【学習の広がり】
第19時 10/16	テレビ会議	A・B	A小のニュースについて、内容を伝え方のアドバイス【改善の視座を得る】
第20時 10/17	電子メール	A・B	B小の児童の感想の書き方、話し方のよいところの伝え方、【交流校の児童の感想を知って、自分のニュースの振り返り】
第21時 10/28	テレビ会議 電子メール	A・B A・B	A小からB小へニュース番組制作の呼びかけ【共同学習の提案】
第22時 11/10	テレビ会議 （実行委員）	A・B	ニュース番組制作の打合せ・内容や作成上の配慮の交流【番組制作の意欲の喚起】
第23時 11/14	テレビ会議 （実行委員）	A・B	中間発表の打合せ 【内容や制作についての共通理解】
第21～ 23時 11/17・ 21・25	テレビ会議	A・B	中間発表1回目、お互いのニュース番組を視聴して、工夫している点や改善点等についての意見交換【意見交換することでわかちあいやよく伝えるための気づきを持つ、更なる改善の視座を得る】
第27時 12/4	直接交流	A・B	B小の地域の山へ、一緒に登山【共同体験で親しみを持った交流の継続】
第28時 1/27	テレビ会議	A・B	中間発表後の再構成したニュース番組の視聴【わかちあいやよく伝えるための方法をまとめる】
第29時 3/12	テレビ会議	A・B	2年間の交流のまとめ【これまでの交流学習を振り返り、自己の成長を実感】

交流学習では、ニュース番組の内容について質問が出されたり、よりよい番組づくりに向けたアドバイスが出されたりしました。

この交流学習を通して、児童の学習は、ニュース番組を相手に分かるよう伝えることの難しさと向かい合い、その解決を図るためのものへと発展していきました。また、交流が、制作したニュース番組の内容について練り直す機会となり、児童の活動は地域理解を広げ深める学習へと発展していきました。

このように、交流することによって、ニュース番組を新たに加工し直したり、発信し直したりするという問題解決の活動へと、必然的に発展していったのです。

2 インターネットのよさの普及—校内研修の推進—

研究協力校であるA小学校では、情報教育を中心とした授業研究に取り組みました。

(1) 「情報の時間」の取り組み

第3学年以上の学年では年間30時間程度を、低学年では年間20時間程度を、総合的な学習の時間等に「情報の時間」として位置付けた情報教育が展開されました。以下は指導計画の一部です。

	第2学年	第3学年	第4学年
9月	秋の虫について確かめよう 生活 1	スーパーマーケット 生活 1 虫の育ち 理科 1	消防署の役割 社会 1 昔の道 社会 1
10月	お魚の絵「みんな元気」 図画工作 1	いろいろな昆虫を調べよう 理科 1 食品工場の見学記録 社会 1	月について調べよう 理科 1 ルールを学んでメールしよう 社会 1
11月	「おとせ九九」歌 1	大きな数 算数 1 きんぎょとま 算数 1	本の観察 理科 2 広島県地域調べ 社会 2

(2) 校内研修会

A小学校の校内研修会は、情報教育推進委員会が中心となって、企画・運営されています。内容は、教職員の情報機器活用の実践力の向上やネットワークの理解を目指した研修、情報機器を活用した教科指導の授業研究等がその主なものです。教育センター職員も年間を通して校内研修会への支援を行ってきました。以下は研修内容の一部です。

期 日	研 修 会	主 な 研 修 内 容
5月15日	全体研修会	講義：校内ネットワークの活用について 1, 2 講師：教育センター指導主事
6月10日	情報教育推進委員会	「学年用デジカメの活用」 「画像管理ソフトの活用」
7月3日	全体研修会 授業研究	第2学年生活科「この町大好き」 指導・助言：教育センター指導主事
7月14日	情報教育推進委員会	Webページ作成手順 「スキナー」の使いかた
8月1日	全体研修会	「フレキシブルなソフトウェアによる教材作成 昆虫クイズ作成」研修
8月5日	全体研修会	講義：教育ソフトウェアの活用—ハードウェア— 講師：広島市立大学助教授 前田春織

同時に、A小学校では、校内研修会の成果等を踏まえて、全教員が研究授業を公開しています。

A小学校では、年間を通して行われた校内研修会の果たした役割は大きかったようです。教育活動の一層の充実につながったことはもちろんのこと、教員個々が情報機器の授業活用に対して抵抗感がなくなるとともに、情報機器を活用する実践力の向上が図られたようです。さらに、児童の豊かな学びを育む指導方法の開発への積極的な姿勢が一段と高まったようです。

研修講座だより②

これまでに実施した研修(一部)の概要をまとめました

不登校に係る研修講座

不登校の早期発見・早期対応

講師
広島国際大学人間環境学部臨床心理学科
教授 杉山 雅彦

講座の概要

子どもはいつもサインを出しています！

『放っておいても大丈夫、この子は問題を起こさない。』と評価して、1日に1回もアクセス(反応)していない子どもはいませんか？ その子どもたちは、学校に来ることの意味を見つけているのでしょうか？ 子どもの「心」のサインを聴いていきましょう。

早期対応のために、「予期不安」をコントロールさせよう！

「自分はみんなに嫌われている…」等の訴えに「そんなことはないよ」は禁句。極端な思考でも、それをそのまま提示し、子どもの思考の中に繰り返されている非合理的な不安、孤立感等を具体的に言葉で表現させ、問題を明確化させ、その後で、その内容を自分の言葉で否定させていくことが有効です。不安の悪循環を断つためには見通しを示し、「少し大変だけど～すれば何とかなる」ことを具体化し、楽なところから実行させます。決して無理をしないで、できたことを確認して「大丈夫だ!」という自尊感情を高めていきます。この時、「私は、支えているよ」という“サポート感”を持たせることが大切です。子どもが戻ってきたときは、言葉ではなく、思いきりの笑顔で迎えましょう！ いろいろな意味で1年間で変化が大きかった子どもは、必ず次の学年・学校へ情報を提供しましょう。



人権教育講座

人権教育の精神の涵養と 学習プログラムの開発

実践講師
観音中学校 教諭 黒崎 信子・幟町中学校 教諭 小田原順蔵
尾長小学校 教諭 福島 誠・利松公民館 館長 的場 泰之

講座の概要

「全ての教育活動の中で人権感覚をどのように育てていくか」

観音中学校 黒崎 信子

「人権感覚は人と人の関わりの中でしか育たない」という基本姿勢のもと、「人間関係力」を育てる。

- ①共通認識を持つための学校努力事項の見直し
- ②学力の向上を目指した基礎・基本の習得
 - ・小・中連携した全員参加の授業づくり
 - ・論理的思考力を高め、子どもと子ども、子どもと授業者をつなぐ授業の実践
 - ・家庭学習の定着を図る宿題の実施
- ③人間関係づくり・体験を重視し、「生き方」を追求する総合的な学習の時間の実践

「いかに生徒に自尊感情を育てるか」

幟町中学校 小田原順蔵

<自尊感情を育てるために>

- ①ほめること odateru → Sodateru
- ②本気で叱ること shikaru → Hikaru
- ③話を聞くこと(共感的な人間関係づくり)

<子どもたちに身につけさせたい能力>

- ①ことばを大切にする力
 - ②他人の気持ちになり想像する力
 - ③人間関係を調整する力(うまく断る力)
- ブレインストーミングやロールプレーなどを取り入れ、具体的にどう動くのかを考えさせる。

「基礎・基本の定着と自尊感情の育成～算数科を通して～」

尾長小学校 福島 誠

<学習集団づくりのための取り組み>

- ①お互いを温かい気持ちで見えていく学級づくり
- ②小集団活動の活性化(交流を深める場の設定)
- ③学習規律の徹底(聞くことの重視)

<算数の基礎・基本の定着のための取り組み>

- ①興味・関心を高める物語仕立ての教材開発
- ②1時間ごとに重視して指導する基礎・基本を明確にした指導計画の作成
- ③半具体物を用いた算数的活動の積極的な導入
- ④授業中の赤丸付けなど肯定的評価の重視
- ⑤定着状況の確認テストの結果を受けた個別指導の実施および課題選択学習への発展

「利松公民館(旧八幡コミュニティセンター)における人権教育講座の取り組み」

利松公民館 的場 泰之

<地域で子どもを育てるために>

- ・子ども人権クラブ(アサーティブトレーニング等で自分について考える)→課題を感じた子どもについて、学校と連携を図る
- ・小・中地域連絡協議会(人権教育に関する情報交換並びに研修会を学期に1回実施)

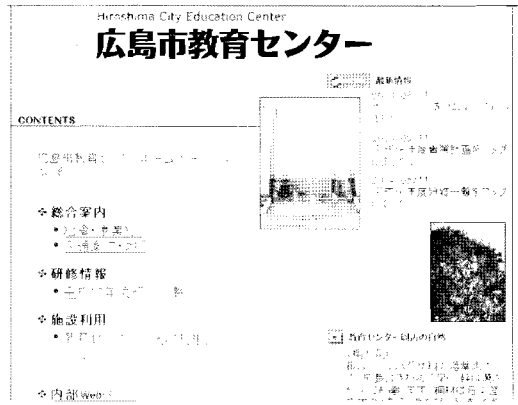
<地域の人材や情報の活用>

- ・国際理解講座(異文化体験・交流)
- 講師の紹介・派遣が可能です。学習プログラムのノウハウを活用し、共同型のプログラムを開発・実践していきましょう。

教育センターの内部 Web ページが変わりました

今年度、広島市では、小・中学校の機器の更新やインターネット接続回線の高速化が図られています。これらのブロードバンド環境の活用を促進し、より教育効果を高めるために、教育センターでは、内部 Web ページを活用した教育情報等の提供を目指してシステムの構築を行ってきました。今回は、現在サービスを提供しているものを中心としてご紹介します。

現在、教育センターの Web ページは、インターネットの世界から閲覧することのできる外部用の Web ページと広島市立学校（イントラ内）からだけ閲覧することのできる内部用の Web ページがあります。市立学校への教育情報の提供は、この内部用 Web ページをとおして行います。



外部用 Web ページ

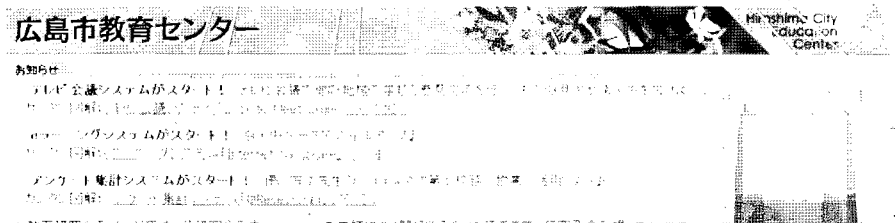
1 内部 Web ページの TOP ページの概要

内部用 Web ページは、外部用 Web ページのリンクをたどるか、直接 Web ページの URL 入力して閲覧することができます。TOP ページは、下の図のように新機能を追加しています。各項目は機能別に分かれ、各教育情報へのアクセスするための入口になっています。

- 教育センターで実施している研修講座の概要が分かります。
- Webカメラを使って、他の地域の学校ともテレビ会議を通して共同学習ができます。
- 小学校と養護学校の先生方に御協力いただき、地域素材等の教材化を行っています。【年度末に公開予定】
- 教育センターの総合案内です。組織や事業の紹介をしています。

- 市立学校から収集した教育資料を閲覧できます。
- 指導主事・長期研修生・学校教育研究グループによる研究成果を閲覧できます。

- 自作のアンケートを作成し、学級内や学校内、あるいは市立学校間でアンケート調査を行うことができます。回答は Web ブラウザを用いて行います。



- 自作のアンケートを作成し、学級内や学校内、あるいは市立学校間でアンケート調査を行うことができます。回答は Web ブラウザを用いて行います。
- 市立学校のネットワークに接続された端末を使って、学校において自分のペースで研修を行い、さまざまな技能のスキルアップを図ることができます。
- 地域素材や研修講座のトピックス等の動画をコンピュータで見ることができます。【現在、動画を作成中】
- 教育センターが保有する図書・ビデオ・ソフトウェアの一覧を閲覧できます。
- 目的の情報がサイト内にあるかどうかを検索することができます。
- 小・中学校の教科研究会や教科外研究会専用の Web ページです。さまざまな研究会情報を閲覧できます。
- 授業で活用可能な Web ページコンテンツなどのリンク集や指導事例を提供します。【現在、市立学校の先生方と作成中】

(内部用 Web ページアドレス : <http://192.168.6.10/>)

2 新機能の紹介

(1) eラーニング

新しい研修形態としてeラーニングの活用が注目を集めています。教育センターでは、今年度eラーニング用サーバーを構築しましたが、このことで、校内LANに接続されている端末から、時間があるときに自分のペースで好きなだけ下表の研修をすすめることができます。使用手順は下図のとおりです。

ソフト名	ソフトの特徴
・よくわかるWord2002基礎、応用 ・よくわかるExcel2002基礎、応用 ・よくわかるPowerPoint2002基礎	ワード、エクセル、パワーポイントの操作技能の向上を図ることができます。
・情報セキュリティ（入門編）	身近な事例を通して、情報セキュリティの大切さについて理解を深めることができます。
・職場のアサーション	職場の人間関係をより良くするコミュニケーション能力の向上を図ることができます。
・職場のストレスと対処	ストレスに、うまく対処するための考え方や対処能力の向上を図ることができます。

- ①Webページからユーザ登録申請（ユーザID、パスワードの取得）
- ↓
- ②登録したユーザIDとパスワードをログイン画面で入力
- ↓
- ③受講希望講座の申請
- ↓
- ④申請した講座の受講

(2) テレビ会議

各教科や領域の学習活動に積極的に交流学習が取り入れられつつあります。テレビ会議を活用した交流学習は、子どもたちのものの見方や考え方を広げる上で、効果的な指導方法の一つであると言われています。このたび教育センター内にテレビ会議用のサーバーを構築したことで、Webブラウザを用いて、インターネットにつながっている学校と、比較的簡単にテレビ会議を行うことができます。使用手順は右図のとおりです。

- ①Webページからユーザ登録申請（ユーザID、パスワードの取得）
- ↓
- ②使用するパソコンの設定（専用ソフトのインストール）
- ↓
- ③会議室の予約（交流相手への連絡）
- ↓
- ④会議室へ入室（テレビ会議の実施）

(3) アンケート集計

学校では、授業等の改善・充実のために、児童生徒を対象としたアンケートを実施することがありますが、その集計作業は人変な労力を要するものです。これを効率化するため、アンケート集計システムを導入しました。Webページからユーザ登録の申請をしていただくと、アンケートの作成ができます。これを公開し、校内LANに接続されている端末から回答者は回答を行う仕組みです。授業後のアンケートやテストにも活用できますし、市立学校全体を対象としたアンケートの実施も可能です。回答結果は、表計算ソフトで読み込める形式で取り出せますので、集計結果の活用もスムーズに行えます。使用手順は、右図のとおりです。

- ①Webページからユーザ登録申請（ユーザID、パスワードの取得）
- ↓
- ②使用するパソコンの設定の確認
- ↓
- ③アンケートの作成
- ↓
- ④回答のためのURLを回答者へ連絡
- ↓
- ⑤アンケートの実施

これらの新機能等の使用に関わる問い合わせは教育センター職員に、技術的な質問はサポートデスク（毎週金曜日に教育センターに来所）にお問い合わせ下さい。（TEL 223-3563 担当：住吉指導主事）

コラム

《命を大切にす教育の充実について》

「命を大切にす教育」については、平成9年の神戸市における連続児童殺傷事件以来、全国各地において積極的な取り組みが行われています。平成16年8月に出された、文部科学省「児童生徒の問題行動対策重点プログラム（中間まとめ）」には、以下の三点が充実のための要点として挙げられています。

① 命の大切さの指導の充実

子どもが自他の生命の大切さを実感し、「他人を傷つけない」「自分を傷つけない」といった基本的な倫理観を踏まえて生命を尊重した行動がとれるよう、体験活動などを通して命の大切さを学ぶことのできる教育プログラムを開発することが大切です。

② 伝え合う力と望ましい人間関係の指導の充実

子どもたち相互の間で生じたトラブルの解決を暴力に訴えることのないようにするため、自分の気持ちや考えを適切に相手に伝えたり、相手のよさを発見して伝えたりする力を育てることが大切です。

- 伝え合う力を高め、望ましい人間関係を構築するための実践的なプログラムの開発・実施
- 衝動的な行動抑制のためのプログラム等の活用促進

③ 社会性を育む体験活動の充実

自然体験活動や社会奉仕体験活動などの効果的な体験活動を通して、他者への献身、奉仕の心、思いやりの心等、心の絆づくりと望ましい人間関係の形成を促進する教育を充実させることが大切です。

- 他人を思いやる心を育むこと等を目的とした体験活動の充実
- 学校における奉仕活動の実施についての徹底 ○ 青少年教育施設等における体験活動の充実

指導主事研究の紹介

今年度、当センターでは、研究協力校や研究協力員の先生方にデータの収集や授業実践等の協力をお願いしながら、以下の三つの研究に取り組んでおります。

研究主題	担当者	研究のねらい
少人数指導の充実に係る実践研究	井坂 雅浩 藤村 和彦 大下 恵子 水ノ上俊一 正原 直行	学習集団の効果的な編成及び運用、学習集団に応じた学習課題の設定等について工夫した少人数指導を実施し、確かな学力の向上を図る観点から、少人数指導の改善・充実の視点を得る。
学校評価の充実に係る実践研究	尾形 慎治 堂道 和雄	内部評価や外部評価が、教育の質の向上に有機的に機能するための学校評価の具体的な方策について開発・検証する。
教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究	住吉 磨 山領 勲	コンピュータやインターネットの授業等への活用を促進するための教育用コンテンツを開発する。

研究員研究の紹介

『所報76号』でお知らせしましたように、今年度は7名の先生方が研究員として1年間教育研究に取り組まれています。今回は、研究員の研究内容の概略をお知らせします。

理科教育：岡本 順子（安小小学校） 気象の単元における自然の事象・現象を感じ、考え、実感する力を高めるための支援の在り方に関する研究
体育科教育：清水 剛（落合東小学校） 児童の課題意識をもち運動する「楽しさ」を味わうことのできる体育科の学習指導法に関する研究
数学科教育：村上 和敬（吉島中学校） 数学的活動の活性化を図る指導の工夫改善に関する研究～生徒の思考過程の「見取り」を通して～
情報科教育：難波 太（安佐北高等学校） 普通教科「情報A」において、情報社会に参画する態度の育成を図る学習指導法に関する研究～コピーレフトに基づくフリーソフトを活用した指導を通して～
商業科教育：中堀 恵（広島商業高等学校） 「ソフトウェア開発」の学習において、パッチ型のCOBOLプログラミングを習得した生徒が、対話型ソフトウェアの開発をするためにイベント駆動型Basicを習得できるテキスト作成に関する研究
生徒指導・教育相談：岡崎美佐子（三篠小学校） 集団生活に適応できにくい児童の心を開き、自己効力感を高める教育相談活動に関する研究
生徒指導・教育相談：橋本志津江（安西中学校） 学校における組織的・体系的な教育相談の在り方に関する研究～教育相談の効果を上げるための実践を通して～

広島市学校教育研究グループ活動奨励事業

教育センターでは先生方の少人数グループによる自主的な教育研究がより充実したものになるよう支援しています。（平成16年6月～平成17年2月）

具体的には以下のような支援をしています。

- ① 研究に係る奨励金の交付
- ② 研究内容・研究方法等についての相談
- ③ 研究内容に係る教育情報の提供

今年度は、11のグループが次の題目で研究に取り組まれています。

個に応じた確かな学びを創り出す少人数指導方法の研究 少人数指導研究グループ
学び合い、高め合う子どもをはぐくむ授業づくり 学び合い研究会
新しい教育を支える学校図書館教育はどうあるべきか ブック イズ フレンド
子どもたちに「ことばの力」をはぐくむために 己斐上小教材研究ゼミ
社会科授業研究 五日市・小学校社会科研究会
自ら学習する力を育成するための指導法の研究 複式授業研究会
かがやき、ひびきあい、共に生きる子どもを育てる ～道徳教育を通して～ 日浦小学校道徳教育研究会
道徳の時間に使う資料開発の研究 高取北中学校道徳教育研究会
ことばの基礎力をはぐくむ 国語力向上城山北会
幼児理解と指導法に関する一考察 ～エピソード分析から～ こやぎ研究会
人とのかかわりを生かした保育のあり方 ～子どもの視点からかかわりをとらえ直す～ 船越幼稚園幼児教育研究会

題 字 「所 報」

広島市立美鈴が丘高等学校教諭 植村 正巳

表紙絵 「ひろしま」

広島市立川内小学校校長 清見 嘉文

編 集 後 記

広島らしい新しい教育の充実が求められています。みなさまの英知と経験と創造力で、よりよい教育活動を切り拓いていきましょう。教育センターのWeb ページを更新しました。今後も、みなさまの「役に立つ」カリキュラムセンターとしての機能を、一層高めていきたいと考えております。どうぞご利用ください。

広X6-2004-17(2)

編集・発行 広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号

TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580

E-mail: center@center.edu.city.hiroshima.jp

Website: http://www.hcec.ed.jp/